

一 般 質 問 通 告 表

令和7年第2回始良市議会定例会（6月19日）

8. 新福 愛子	1. 子育て支援の拡充に向けて 2. カスタマーハラスメント防止策と条例の制定について	少子化の打開策の一つとして、出産・育児に対する不安を解消する子育て支援の更なる拡充が求められる。子どもを持ちたいと願う人が安心して子育てできる環境整備に向けて以下を問う。 （１）父親の育児や家族の多様化を反映し、母子健康手帳に「親子手帳」などを併記する考えはないか。 （２）出産後の女性の中には、様々な理由から自分で母乳を搾る「搾乳」が必要な場合がある。そうした母親が気軽に利用できるよう、多くの施設で進んでいる授乳スペースに「搾乳」ができることを示すマークを表示できないか。 （３）不安定になりがちな産前産後の女性特有のニーズに応え、心身の安定と産後の母親に寄り添いながら、家事や育児を支える専門家「産後ドゥーラ」が話題となっている。子育て支援の環境整備の一環として、「産後ドゥーラ」資格取得への補助を検討できないか。 （４）男性へのサポートとして、“父親の産後うつ”への配慮が求められている。市としての支援策を問う。 （５）保育所から小学校への進学をきっかけに、働く親が子どもの預け先に困る「小１の壁」に対する本市の実態と課題、今後の取組を問う。 就業者が安心して働ける環境整備として、条例制定と並行してカスハラ対応の手引きや対応方針をまとめる自治体が増えている。本市の取組を問う。	市 長 教育長 市 長 教育長
----------	---	--	---------------------------------------

9. 谷口 義文	1. コメ問題について	コメ不足、コメ高騰により、国は備蓄米の放出に踏み切った。5キロ当たり2,000円前後で販売されている。 これは一時しのぎの短期的な対策である。 いずれにせよ、この件に関しては様々な要因の解明と中・長期的な視点に立ち、生産者が安心してコメ作りができ、生産者の意欲を高めてコメの安定的な供給を確保し、なおかつ消費者に受け入れられる価格水準の形成をどうするかが今後の課題である。 (1) 本市のコメ生産に関する現状と課題、取組について以下を問う。 ①コメの作付面積と収穫量 ②収穫したコメの流通先と価格水準 ③減反政策による生産調整の実態 ④主食米と飼料米との比率 ⑤コメ生産者の高齢化問題 ⑥近年の温暖化による夏場の高温障害への対策 ⑦肥料や農薬といった資材費の高騰への取組 (2) 今後の農業改革の具体策としての考え方を問う ①減反政策の改革 ②農地の「集約」から「大区画」化 ③新技術の導入 ④海外マーケットなど新しい需要の開拓	市 長 農業委員会 会長
	2. 交通の安全確保について	(1) 本庁舎近くの鹿児島銀行始良支店南側の道路には、銀行への駐車場待ちの車が多く駐停車している。 この道路沿いには郵便局、店舗もあり多くの利用客が行き来している。ところがこの道路は道幅も広くなく、また歩道の設置もないため、車の往来に限らず、歩行者にとっても危険な状態	市 長

		である。安全確保策として、一方通行道路若しくは駐停車禁止道路または歩行者優先道路（時間帯を設定）等とすることが望ましいと考える。変更することはできないか。 （２）銀行正面の交差点も人通り、車の往来も増えている。横断歩道の設置が必要だと考えるがどうか。 （３）イオンタウンの開業により、近辺の道路事情も変化してきている。この近辺には交通の規制をする信号のない危険な交差点がいくつか点在している。（川原クリニック前、アイライクホテル前、メルヘンスポーツ前）特に右折の場合、距離の認識等間違えば重大事故に繋がりがねない。 イオンタウンの中心地点にある県道の信号も右折矢印の表示がなく、スムーズな通行が困難である。 安全確保策が必要だと考えるがどうか。	
	３．孤独死について	孤独死に関しては、その個人の家族構成、生活環境（実態）、健康状態等、様々な要因（原因）が考えられる。 本市における実態と対策（手立て）を問う。	市 長
10. 宇都陽一郎	１．始良市ふるさと会について	始良市には、「関東ふるさと会」「東海ふるさと会」「関西ふるさと会」の３つがある。議員として出席し、会員の皆様のふるさとへの熱い思いに触れることができた。中には写真を持参し、当時のことを鮮明に説明してくれる会員もいらっしやった。ふるさと会の方々は、始良市の大切な応援団だと思う。このふるさと会について以下の点を問う。 （１）始良市のホームページでも会員募	市 長 教育長

	2. 合併処理浄化槽と地域下水処理施設の在り方について	集が掲載されており、市長公室秘書広報課秘書係が問い合わせ先となっている。年間どの位の入会希望者からの問い合わせがあるのか問う。 (2) 現在の会員数と平均年齢を問う。 (3) ふるさと会の中で「ふるさと納税」の説明や始良市の特産品の紹介をしていたが、ふるさと会会員からどの位のふるさと納税に繋がっているのか問う。 (4) 各ふるさと会との交流活動にどのような成果を求めているのか問う。 (5) 今後、どのようなサポートを検討しているのか問う。 浄化槽は、日本で独自に開発された排水の污水处理施設であり、下水処理施設が普及していない地域で利用されている。鹿児島県では令和5年度時点で約32万基設置されており、全国6位の設置数である。当初は、トイレのし尿処理だけに対応した「単独処理浄化槽」だったが、2001年からは台所や洗面所、風呂場も含めた家庭から出る排水全般を処理する「合併処理浄化槽」の設置となっている。 始良市の下水処理では、各家庭に設置する合併処理浄化槽が主流となっている。その他に、始良市が管理して処理する地域下水処理施設と農業集落排水処理施設がある。その内訳としては、合併処理浄化槽の利用が約85%、地域下水処理施設と農業集落排水処理施設の利用が約10%となっている。 今回は、施設の内容ではなく、維持管理について以下の点を問う。 (1) 始良市内で、「単独処理浄化槽」は何世帯くらい利用されているのか。また、環境保全の観点から「合併処理浄化槽」へ切り替えが望ましいと考える	市長 教育長
--	------------------------------------	--	-------------------

		が、何か指導あるいは助成を行っているのか問う。 (2) 始良市が管理する施設として、加治木地区には新生町処理施設があり、始良地区には始良ニュータウン処理施設、みさと台処理施設、朝日ヶ丘処理施設、南錦江団地処理施設、さらに山田地区の農業集落排水処理施設がある。これらの施設が建設された経緯を問う。 (3) 始良市は人口増加しているが、新築住宅の建築件数も増加していると思われる。過去3年間の新築住宅においては、合併処理浄化槽と地域下水処理施設、農業集落排水処理施設の割合はどのくらいなのか問う。 (4) 物価も上がり、人件費も上がり、様々な施設で維持費が上昇している。現在、始良市が管理している地域下水処理施設と農業集落排水処理施設においても維持費が上昇していると思われる。今後、どのような対応を検討していくのか問う。 (5) 始良市が管理している施設に「給食センター」がある。この給食センターで調理の際に使用した排水は、一般家庭とは異なる処理と思われるが、どのように排水処理しているのか問う。	
11. 峯下 洋	1. 農業振興対策について	テレビ・新聞等により、農林水産大臣が代わり、古古米・古古古米を3,000円以下で販売できる事が報道されている。始良市の議員として、本市は大丈夫かと心配になる。そこで以下について問う。 (1) 始良市も高齢化に伴い、耕作放棄地が増えていると聞くが、始良市の現状と対策を問う。	市長 農業委員会 会長

	2. 教職員の負担軽減に向けた取組について	(2) 始良市の農作物の作付面積・収穫量についての現状を問う。 (3) 中山間地域において、鳥獣被害に対し、以前はサルに GPS をつけてある程度の群れの把握が出来ていたがその後の対策を問う。 (4) 最近田舎に帰って農業をしてみたいという方もいるとの声を聞くが、本市の後継者についての把握は出来ているか。また新規就農者の現状を問う。 教職員の負担軽減につながる、部活動の地域移行について、賛否両論あることは認識している。現在は先生方が部活を担当しており、その中には得意分野以外の部活の担当をしている状況もあると聞く。そこで以下について問う。 (1) 本市の地域移行について状況を説明せよ。 (2) 教員の負担軽減につなげるため、部活動の地域移行が必要だと考えるが、本市ではどのように取り組んでいくのか。 (3) また、校務支援システムについても、教職員の負担軽減につながると考えるが、本市の活用状況はどうなっているのか状況を説明せよ。	市長 教育長
--	------------------------------	---	-------------------